

令和3年度植物友の会活動記録

久保晴盛・濱谷修一

はじめに

植物友の会は、植物に興味を持つ一般の方々から募集した人達の集まりで、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和54年10月に設立された会である。

令和4年1月現在、会員数は個人会員が79(8)名、家族会員が16組36(4)名の計115名であった。()内は昨年度同月からの増加会員数。

活動

年6回の例会、年3回の野外観察会、会誌「はなの輪」の発行などを主な活動として行った。また、園内ボランティア(友の会ボランティア)、部会活動(植物同好会)などは通年で活動した。

(1) 例会

2か月に1回の定例会を展示資料館2階講堂で行った(表1)。季節の園芸作業、植物に関する講話や園内の植物ガイドなどを職員が持ち回りで行った(写真1)。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園により、第1回・第3回・第5回例会は中止となった。また、密を避けるため、園内の植物観察は行わず、スライドで解説する形で対応した。例会の前には運営委員会を開催し、友の会の活動方針などを随時協議した。

表1 例会の内容

第1回 5月16日	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園のため中止
第2回 7月18日 参加者20名	・園芸作業 夏のウォーターガーデニング パオパブの育て方
第3回 9月13日	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園のため中止
第4回 11月15日 参加者33名	・園芸作業 セントポーリアの年間管理 ナラ枯れについて
第5回 2月7日	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うイベント制限のため中止
第6回 3月6日	・総会 ・植物に関する講話(予定)

(2) 観察会

新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画の観察会(年3回計画)は全て中止とした。第1回については、募集は行ったが、実施できなかった(表2)。第2回、第3回については企画段階で断念した。

表2 野外観察会の開催地と場所(募集したもの)

第1回(中止)・妹背の滝と上田宗箇の墓 5月30日	(廿日市市大野町)
------------------------------	-----------

(3) 展示会

植物同好会の会員が自宅で栽培している季節の山野草などの植物を展示する「植物同好会ロビー展示」は、5月11日～16日及び9月7日～12日の会期で実施する予定としていたが、いずれも臨時休園に伴い中止となった。

(4) 園内ボランティア

第1・第3火曜日に有志を募って通年で開催した(表3)。温室内の施肥や花の植え付けなどの植栽管理、屋外の除草、ハンギングバスケット作成やクリスマスを飾るフラワー展の装飾(写真2)など多岐にわたって園内の魅力向上に貢献していただいた。

表3 令和3年度友の会ボランティア活動記録

活動月	活動内容	のべ人数
4月	植栽管理(カスケード・ベゴニア・大温室)	18
5月	休止	0
6月	休止	0
7月	除草等(進化園・大温室)	6
8月	休止	0
9月	休止	0
10月	除草等(バラ園・大温室)	12
11月	クリスマス展飾付、ハンギング作成等	21
12月	植栽管理(カスケード・ベゴニア・栽培温室・大温室)、はなの輪発送	26
1月	休止	0

(5) 会誌「はなの輪」の発行

A4版8ページ(観音開き)のリーフレットとして、植物の育て方や園内の見どころなどを

紹介した会誌「はなの輪」を各号 500 部発行し、会員のほかに関係団体へ分譲した(表4)。また、会員向けのニュースレターを例会毎に発行した。なお、はなの輪については、植物公園の機関誌として内容を再編集したものを各号 1500 部発行し、広島市内の区役所や公民館等に配布した。

表4 会誌「はなの輪の発行」

平成3年4月	2021 通巻 167号 (春～初夏号)
令和3年7月	2021 通巻 168号 (夏号)
令和3年10月	2021 通巻 169号 (秋号)
令和4年1月	2022 通巻 170号 (冬～初春号)

(6) 部会

友の会内の部会は、現在は植物同好会(旧山草部会)のみが活動しており、その活動は植物公園の運営下にはなく自主的に運営されている。例年、植物同好会では、2か月に1回、友の会例会前の午前中に会合(例会)を開いているほか、5月と9月の友の会例会にあわせて開催する展示資料館ロビー展示(今年度は臨時休園に伴い中止)や同好会独自の野外観察会を行っている。また、部会員が栽培・育成した苗物の交換も随時行っており、4月のサクラソウ展では出品(展示)に協力いただいた(写真3)。

まとめ

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が友の会活動にも大きな影を落としており、事業計画の大半を遂行することができなかった。特に、友の会活動の柱である例会を3度中止することになり、年間を通じた活動や会員同士の交流に大きな支障が生じた。来年度以降も同様の事態が想定されるので、会誌はなの輪とあわせて自宅で学べる植物に関する素材を提供することやデジタルツールの活用など、コロナ禍における愛好会活動の形を考えていく必要がある。

また、友の会として満足な活動ができない中において、新入会員の定着と事業内容の見直しが課題となっている。今年度は会員数が微増したが、広報の強化などにより、一層の会員獲得に努める必要がある。活動のうち、友の会ボランティアについては、各回の参加会員が増え、会員の満足度の高い活動として定着しつつある。

今後も会員の要望に耳を傾けながら、より活気のある会として運営できるよう、園としてできる様々な施策を講じていきたいと考えている。

活動の様子(写真1～3)



写真1 第4回例会「セントポーリアの年間管理」



写真2 友の会ボランティア(11月18日)
(クリスマス飾るフラワー展の装飾補助)



写真3 サクラソウ展 展示協力